

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 7月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	2271200228
法人名	医療法人社団 青虎会
事業所名	グループホーム ふれんど
所在地 (電話番号)	静岡県御殿場市川島田1084-1 0550-89-5722
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年3月18日

【情報提供票より】(平成20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年3月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 10 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	12.1 人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建て	1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	有(130,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,170 円	

(4) 利用者の概要(平成20年2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	9 名	女性	9 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84.9 歳	最低	70 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	フジ虎ノ門整形外科病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人が運営する種類の施設が並ぶ一角に立つグループホームで、開設から3年経ったところである。開設当初はグループホームのマニュアルに沿っての運営であったが運営推進会議の成果や認知症サポーター養成講座への協力等により「地域に根付く」というホームのカラーが鮮明になってきている。利用者ひとりひとりの特技や好きなことを、さまざまな機会を捉えて取り組めるよう図っており、毎月の行事と併せて張り合いのある暮らしの中で利用者やホームの雰囲気は明るく、法人のバックアップを含めて職員の対応に家族の信頼は厚い。今年目標「尊重・傾聴・コミュニケーションを図る」が利用者には勿論、家族、職員、地域の方々すべてに対して達成され、より深い信頼感で繋がったホームとなるよう期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価より、活動意欲を促すための検討についてはクラブ活動の習字や仲良しサロンの活用を開始し、介護計画の見直しについては3ヶ月ごとの見直しを実施している。金銭管理については、確認サインにより確実な記録とし、改善されている。利用者の状況に応じた職員の確保については、法人との話し合い等今後の課題である。</p>
	②	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は各ユニットごと全員で取り組んでいる。項目が細かく、読み取り方の難しさもあって「面倒だ」との意見もあったが、「グループホームの職員としてここまで考えなければいけないのか」、「出来てない部分を感じることが出来た」など意見もあり、年に一度の評価を改善に活かそうと前向きに取り組んでいる。</p>
重点項目	③	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>区長・民生委員・市域福祉委員・地域包括センター・家族代表等をメンバーに2カ月に一度開催されている。地域委員はホームが地域の資源であるとの見地から積極的な協力・助言で地域防災訓練、盆踊り、仲良しサロン等行事への参加が実現し、利用者を地域で守るためのネットワーク作りへの提言もあり今後の経過が期待出来、運営推進会議の所期の目的を十分果たしている。</p>
	④	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年に4回家族会が開催されて家族・職員が言いたいことを言える場であり、意見は出席者全員で検討している。また苦情や意見については用紙を手紙に入れて引き出すよう配慮しており出された意見は会議で話し合い対処している。家族には言いにくいこともあるので、意見や苦情こそがホーム改善の源であることを理解していただいて、今後もたくさんの意見を引き出す工夫をお願いしたい。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>どんどやきや夏祭りなど地域行事に参加し、ホームの納涼祭に地域の方に来ていただいたりしている。また地域福祉推進委員の提案により趣味の会「仲良しサロン」のカラオケや習字に希望者は参加して地域の方々と交流しているが、夏祭等地域行事に「ホームからお客様として参加するだけでなく一緒に手伝ってみたい」との職員の意見があった。運営推進会議等を通じてお願いし、利用者ともどもお祭り作りに地域の一人として出来る事で参加されるよう期待している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念を「その人らしく生きられる そして すべての人に支えられる生活空間」として、ホームだけでなく地域の方々との交流の中で利用者一人ひとりの思いに沿った暮らしの実現を謳っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示し、ミーティングで話し合い職員の意識づけを図っている。カンファレンスや利用者の行動の原因を探っているときに、理念に気付かされることが多い。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	どんどやきや夏祭りなど地域行事に参加している。また地域福祉推進委員の提案により趣味の会「仲良しサロン」のカラオケや習字に希望者は参加して地域の方々と交流している。	○	夏祭等地域行事に「ホームからお客様として参加するだけでなく一緒に手伝ってみたい」との職員の意見があった。運営推進会議等を通じてお願いし、利用者ともどもお祭り作りに地域の一員として出来る事で参加されるよう期待している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各ユニットごと全員で取り組んでいる。項目が細かく、読み取り方の難しさもあったが、「グループホームの職員としてここまで考えなければいけないのか」、「出来てない部分を感じる事が出来た」など意見があり、年に一度の評価を改善に活かそうと前向きに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域委員はホームが地域の資源であるとの見地から積極的な協力・助言で地域防災訓練、盆踊り、仲良しサロン等行事への参加が実現し、利用者を地域で守る為のネットワーク作りへの提言もあり今後の経過が期待出来、運営推進会議の所期の目的を十分果たしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の状況報告や書類の提出等市とは連携が欠かせない。市主催の介護保険事業所意見交換会に出席して、地域グループホーム8箇所の交流を呼びかけている。介護相談員の受入れをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月発行される「ふれんど新聞」は利用者の写真入で行事案内や行事参加利用者の感想等を掲載し楽しい新聞となっている。運営推進会議議事録や家族連絡会議事録も逐一記録され、これらが家族のもとに送られている。個々の報告は家族面会時、急を要する場合は電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に4回家族会が開催されて家族・職員がホームを良くするという姿勢で意見を出しあって、出席者全員で検討している。苦情や意見については用紙を手紙に入れて引き出すよう配慮しており意見は会議で話し合い対処している。	○	家族には遠慮があり言いにくいこともあるので、意見や苦情こそがホーム改善の源であることを理解していただいて、たくさんの意見を引き出す工夫をお願いしたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人全体の人事異動があり、職員の交代は止むを得ないところもあるが不安を抱く家族もある。新しい職員には半月から1ヶ月ほどマンツーマンで職員が指導に当たり、分からないことはその都度説明してホームの方式や利用者について理解してもらい、利用者に出るだけ影響を与えないよう配慮している。	○	利用者と職員の馴染みの関係を保つことは重要である。異動を最小限に抑える努力や工夫が求められる。職員異動については家族にその旨を説明して不安への配慮を願いたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月法人の勉強会が開かれ、各部署が受け持ちで講習会を実施し、自己啓発の機会となっている。「1日研修は聞いているだけで勉強になる」とのことであった。実務者研修や介護支援専門員資格取得の勉強会等も法人バックアップのもと行なわれ積極的に職員は参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡協議会に出席し、グループホーム協会で研修を開催されるよう提案をしているが、一般職員が他のグループホーム等事業所と交流を持つ機会はない。	○	他グループホームとの交換研修等により視野を広め、ケアの向上や地域の活性化を期待したい。地域のグループホームの中心的な存在として活動をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたり、面会しアセスメントを行いできるだけ多くの情報を収集している。これまでの暮らしを受け継げるよう配慮している。慣れるまでは職員がマンツーマンで対応している。家族に食事や宿泊を共にしていただくこともある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と一緒に暮らす家族という認識を持っている。利用者から料理・礼儀や生活の知恵について教えてもらったり、戦争の話の聞いたりしており、また利用者の生き方そのものに学んでいる。信頼関係の構築は何よりの喜びである。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや利用者・家族との話し合いをもとに、一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。困難な場合は、日々の暮らしの中での、会話や様子からの気づきをもとに、出来る限り本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者指導の下、利用者担当職員が利用者や家族の意見を反映させながら計画を立ており、週2回のカンファレンスで他の職員の気づきや意見を取り入れて利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1度見直しをしている。カンファレンスやミーティングにおいて、職員のアセスメント力を養っており、課題が見えたら随時見直しをしている。日常のケアを当り前の事とせず、気付いたことは記録に取り、ケアに活かせるよう心掛けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診支援や理・美容院への予約や付き添い支援をしている。移動図書館の利用をしている。家族と友人宅を訪れたり、戦友会へ出かける等外出外泊支援もしている。併設施設のデイサービス利用者と家庭菜園での野菜作りをしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を聞き、協力機関についての説明もしている。家族が受診に行かれない場合は、職員が付き添って行っている。何かあれば、すぐに併設保健施設の看護師に相談することができ、受診の必要があれば、家族に連絡を取っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階から、家族や医師等と話し合いをしている。家族からのホームでの看取りについての希望が強くなってきており、職員は家族として関わってきているので今後できるなら、看取りをしていきたいとの意見が出ている。	○	重度化に伴う介護や看取りの方針に関して、関係者と話し合い、明文化されることに期待したい。家族への同意と協力を得られることを第一に、職員体制を考慮し、全員で方針を共有して行くことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の生い立ちや現在の気持ちを傷つけることのないよう、嫌がることには触れないように配慮している。ケースによって同姓介助も配慮している。個人情報の書かれた書類等の保管・処理状況も事務所内に、適切に管理され、情報漏洩防止に留意している。	○	一部であるが、言葉遣いが気になった。職員の個性である場合もあるが高齢者に対しては特に配慮されたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の要望や不満を引き出して、暮らしの中でしたいことをやっていたり手助けをするという姿勢で臨んでおり、生活リズムが取れるよう声かけするが無理強いせず、家事など得意な事を担当してもらっている。洗濯を自分でする利用者がいたり、職員と思いをたどりながらドライブしてくる利用者もいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立係が利用者に希望を聞きながら1週間分の献立を立て、調理に参加できる利用者は職員と共に野菜を切ったり、盛り付けたりしている。皆同じテーブルで食事をしており、訪問当日は職員の声かけによって和やかな雰囲気であった。毎月外食やお弁当を取っていただく楽しみもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴できる曜日や時間は決めず、なるべく利用者のペースに合わせている。毎日入浴する利用者もいるが1日おきには入り、気持ちよく入浴していただけるように心掛けている。寒いときには足浴で安眠している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や趣味を把握し、大正琴・習字・五目並べや、併設の施設の音楽療法など楽しめるよう支援している。カレンダー作りを自分の仕事として毎月取り組んでいる利用者もいる。餅つきには御菓子職人だった利用者の手さばきに見入ったり、壁に飾られた習字や絵画の作品はプロの作品のようである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には畑へ出たり、散歩で敷地内のかも池の鯉に餌をやったりしている。ドライブ表を作成して利用者が満遍なく外出できるよう配慮している。毎日の買い物には交替で出掛けたり、土曜日は個々に買い物やドライブを楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。外へ出たがる利用者があるが、管理者や職員は、全員で声かけをして見守っている。家族からも信頼されている。夜間は、玄関に施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自主防災訓練を定期的に行っている。地域自主防災への参加や、火防隊の協力要請をして、地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	○	夜間の職員が手薄な時間帯での災害発生時には、近隣の住民の協力が不可欠となる。火災に対する対策、準備は入念にされている。更に運営推進会議を通して協力を依頼され、地域住民参加の下での避難訓練(夜間想定)の実施が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に栄養士の指導を受け、調理に反映させている。血圧の高い利用者には、味噌汁を薄めたり味付けを薄めにするなど支持がある場合は個々に対応している。午前と午後にお茶の時間があり、小まめに水分を取れるようにしている。	○	十分な水分摂取に配慮されているが利用者個々の摂取量の記録ないので、今後の状態変化時に備えて記録されるようお願いしたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃が行き届いて特に便器が良く磨かれていたのが印象的であった。1階のフロアは、事務室を中心に2ユニット続いており開放感があり、利用者が自由に行き来していた。リビングや廊下の壁等に利用者の作品が掲示され、季節の花も生けられていた。列車区間の駅名が壁に並べて貼られ、駅の助役だった利用者が誇らしげに読み上げてくれた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は明るく、清潔感があり、臭いも気にならなかった。ミシンや鏡台等利用者が使い慣れた生活用品や、元気なころに作った人形などの作品等大切なものが持ち込まれ、本人が居心地良く過ごせる居室作りがされていた。		